

# も り 森 林 の 話

第21話  
網走中部森林管理署  
石橋 颯己

若手職員のコーナーです。

昨年4月から網走中部森林管理署置戸森林事務所勤務しております。生まれも育ちも首都圏の私にとって、ここでは仕事もプライベートも新しい出会いで一杯です。今回は北海道で出会った樹木について、自分の趣味も絡めた切り口で紹介いたします。

## 【シラカバ】



典型的なパイオニアツリ（倒木や伐採で光が入るようになった場所にいち早く芽を出し成長する木）で、カンバ類の中でも比較的標高の低い地域に生育します。樹皮は真っ白、材は白く赤みがかります。北海道ではよく街路樹にもなっています。他のカンバと雑種を作るので見分けるのは苦労しますが、私は落枝跡が「U」形に残るのを主な目印にしています。

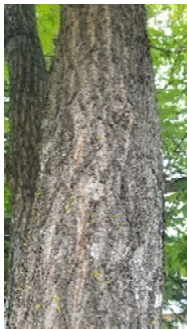
シラカバは森林事務所がある置戸町の木工ブランド「オケクラフト」にもよく使われ、私も赴任直後に一目惚れして購入したシラカバのポウルをずっと愛用しています。

## 【アカエゾマツ】



北海道の林業における主要な樹種の一つです。成長はゆっくりで、赤黒く荒々しい樹皮が特徴的です。近縁種のエゾマツとともにオケクラフトに使われます。ふつうは欠点とされるアテ材（傾斜地で踏ん張るために材の一部が変質したものを使うことで、年輪が濃く出る美しい製品になります）

## 【イタヤカエデ】



北海道に生える主要なカエデ類です。材は非常に硬く、白っぽくやや赤みを帯び、特に空（もく）という特徴的な模様が入るもの等は高値で取引されます。葉は特徴的ですが、樹皮については個体や成長段階によって変異が大きく、葉のない冬には見分けるのが最も大変な木だと思えます。スキー板、器、ポウリングのピン等に使われます。樹液が日本産メープルシロップになる等、親しみやすい小話にも事欠かない木です。

これまで紹介した樹木にはある共通した用途があります。実は、全てピアノの材料として使われるのです。シラカバ（厳密には「カンバ類」と聞いています）は弦を叩くハンマーの柄、アカエゾマツは響板という弦の振動を増幅する部品、イタヤカエデはアクションの中の多様な部品になります。私は趣味でピアノを弾いており、先日それが高じて北海道森林管理局の広報動画を撮影しました。内容は、「ピアノに使われる木を通して道産材の魅力を発信しよう！」というものですが、（現在作成中）。もちろんピアノに関する動画ですので私の演奏も入っておりますが、演奏曲については公開までのお楽しみとしておきます。

成長が早くて模様の可愛いシラカバのコミカルな感じや、北国の厳しい冬を幾度も乗り越えゆっくり成長するアカエゾマツの忍耐強さ、カエデの葉のギザギザを楽譜に映しとったような特徴的なフレーズ：どれも作品と樹木の姿がよくマッチしています。演奏するにあたり、森の現場で仕事をして気付きを得たりイメージが深まったりした部分もあり、「森仕込み」の演奏になりました。

今後、仕事と趣味を好循環させて北国の森を楽しんでいこうと思います。



オケクラフトへの活用